

令和元年度

事務事業評価表 A (平成30年度の実績評価)

記入年月日
平成 31 年 4 月 1 日

Table with columns for 事務事業名, 事業区分, 担当, 政策体系, 財務会計上の位置付け, 予算科目, 法令根拠.

(Do) 1. 事務事業の現状把握 (その1)

Table with 2 main columns: ①事務事業の概要 (事務事業の全体像) and ②担当が行う業務の内容・やり方・手順.

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

Table with columns for ①手段, ②対象, ③意図, and ④-⑥各指標 (活動指標, 対象指標, 成果指標) with data for 29, 30, 01, 02, 03 years.

(3) 投入量 (事業費) の推移

Table showing input amounts (事業費) and personnel (投入量) for 29, 30, 01 years, including 期間限定総投入量.

Table comparing 30年度事業費実績 (千円) and 01年度事業費予算 (千円) with a total of 41,134.

(4) 当該年度の実施内容

Table for implementation content (実施内容) for 01, 02, and 03 years, including a list of main tasks and a right-pointing arrow.

事務事業名	コミュニティバス運行事業	事務事業No.	50401001014	所属課	企画課
-------	--------------	---------	-------------	-----	-----

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? エリア運行のデマンドタクシーのみであった当市の公共交通に対し、市民から定時定路線のバス運行要望があり、平成28年10月より地方創生の交付金を活用して本事業を開始した。
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか? 桜川市バス路線の沿線地区から追加のバス停設置や一部ルートの見直しなどの要望が寄せられている。また、沿線地区以外でも同様の交通機関運行の要望がある。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目

目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 公共交通の充実に結びついている。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 民間での運営は採算面から困難である一方、市民の移動の確保は日常生活の基礎となるものであることから、地方の公共交通はインフラの一つとして捉え、市が関与することが妥当である。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?) <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ルートやダイヤの見直しにより利便性の向上を図るほか、福祉部局や観光部局とのタイアップにより、更に利用者数を増やせる余地がある。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 現在、小学生や高校生をはじめ、多くの市民が利用している状況があり、廃止・休止の影響は大きい。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 類似事業は無い。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?) <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある 利用者数を増やし、収支率を高めることにより、実質の事業費を削減できる余地がある。
	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?) <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 利用はクルマで移動できない交通弱者である学生や高齢者が多くを占めているが、弱者救済の観点から公正・公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 桜川市バスの利用者数は年々増加しており、周知が図られてきている。
(3) 今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要) コスト削減 維持 増加 成果向上 ○ 維持 低下
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 利用実態を把握して課題を洗い出し、運行改善に繋げることで、更に利用者数の向上及び収支率の改善を図っていく余地がある。 具体的には、利用実績の分析や現場で利用状況を確認する作業を念入りに行っていく。	(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 ① コスト削減優先度評価結果

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価 課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合) 確認欄 <input type="checkbox"/>
--	--